

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

大事なことが伝わっていますか？

ある中学校で、通常の学級の授業（理科・数学2・社会2・英語）と、特別支援学級の授業（生活単元学習・自立活動）を参観しました。一人一人の幅の広いニーズに応える特別支援教育の視点と、より多くの子どもが分かる・できる・またやりたいを実現するユニバーサルデザインの視点から、参考になったことを紹介します。



1 学習環境

- ・生徒が学習に集中できるように、黒板付近の掲示物が精選されていた。
- ・学習課題→見通し→問題→まとめ→振り返り等、授業の流れを視覚化していた。
- ・特別支援学級では、全体のめあてだけでなく、個々のめあても明示していた。
- ・大事な部分を強調するために、チョークの色を変えたり、線で囲んだりしていた。『本時のポイント』というスペシャルカードで、より生徒の興味を引く工夫も見られた。
- ・窓側と廊下側の机の位置をやや中央に向けたことで、生徒の参加意欲が ON になっていた。授業のねらい、学級の規模、使用教室によって座席を工夫したい。
- ・電子黒板が見やすいように、カーテンで日差しを調整したり、黒板との位置に配慮したりしていた。また、不使用時は画面を消して視覚刺激を減らしていた。

2 授業の展開

- ・導入で教師が身近なエピソードを紹介したとき、生徒が食い入るように注目していた。生徒の興味のあることや知っていることを取り上げると、やる気スイッチが ON になる。
- ・本時のキーワードを生徒が発表する場面が多く見られた。大事なことを生徒が気づき、自らの言葉で表現すると、より理解が深まる。
- ・特別支援学級では、生徒の得意な活動やできる活動を用意したため、少ない支援で自信をもって取り組んでいた。一人でできる状況づくりが自立につながる。
- ・授業のポイントで、ペアやグループによる学び合い、伝え合いを取り入れると、どの生徒も主体的・意欲的に学ぶ姿が変わった。



3 生徒の態度・反応

- ・1年生の英語の時間、ネギは英語で「green onion」と紹介したとき、生徒から「おー」という声が上がった。感嘆詞が飛び出すとき、生徒の思考スイッチが ON になる。
- ・配慮の必要な生徒がスムーズに話し合い活動に参加できるように、さりげない支援ができる生徒を近くに配置していた。同じ場で共に学ぶ風土が育っている。
- ・「はい」と返事をする、友達の発表時に体を向けながら聞くなどの学習ルールが徹底されていた。更に友達の発表を頷きながら聞いたり、「いいと思います」など、自分の考えを伝えたりすることを習慣化させると、生徒の発表がその場で途切れずにつながっていく。

4 教師の話し方、対応、立ち位置

- ・生徒の発表に対して「ナイスチャレンジをしてくれた」など、教師が笑顔で肯定的に言葉を掛けることが多く、聞いている方も心地よかった。
- ・机間指導では、ペンを持ち、一人一人の生徒の理解度や進捗状況に合わせた言葉掛けや

丁寧な支援ができていた。

- ・ 大事な内容を伝えるとき、「私の説明を聞いてください」と注意を引き付けてから話す、静かになるのを待ってから話す、言葉だけでなく指示棒を使って説明する、電子黒板の近くに移動して話すなど、生徒に伝わる配慮が見られた。

5 その他【授業の質を高める六つのポイント】

- (1) 子どもが本時で何をやるのか見通しのもてる授業
- (2) 子どもが得意なことや好きなことを通して活躍できる授業
- (3) 子どもが分かる・できる・またやりたいと思える授業
- (4) 子どもが考えを伝え合ったり、教え合ったりする授業
- (5) 子どもが本時で分かったことや身に付けたことを表現できる授業
- (6) 子どもが学習の必要性を感じることでできる授業



とれたて直送便



「個別の指導計画」作成のポイント

- 1 各種検査等：最新の検査名、検査月日、検査者と所属名、結果の概要を記入する。
- 2 現在の実態：①生活面、②学習面、③行動面等、各園・学校で記入する内容を決める。
- 3 目指す姿：①長期は1年後、②短期は学期ごと、緊急性が高い場合は1か月とする。
- 4 目標設定：優先順位を付けて二つもしくは三つに絞り、具体的で肯定的な目標とする。客観的な評価ができるように、評価規準を明確にする。
- 5 手立て：指導の経緯が分かるように、二重線を引いて記録が残る工夫をする。不要な支援をしていないか、段階的に支援を減らそうとしているか見直す。
- 6 評価：年2回（半年ごと）に行う。緊急性が高い場合は2週間から1か月ごと。目標（子どもの変容）の評価と、教師の指導・支援に対する評価をする。

※参照 「秋田県特別支援教育校内支援体制ガイドライン（三訂版）」

「子どもは、笑顔が大好き！」



2年前と同じ子どもたちの担任にとなった先生が、「一人でできることが増えた子どもたちの成長に驚いています。毎日が新しい発見の連続です」と、笑顔でうれしそうに話してくれました。先生の笑顔を見ていると、私まで笑顔になりました。園児が家族の絵を描くと、ほとんどの子どもが笑っているお母さんを描くそうです。やはり怒っているお母さんより、笑顔でいるお母さんでいてほしいからでしょうか。

子どもが劇的に変わるかもしれない方法があるとすれば、それは温かい言葉を笑顔で掛け続けることかもしれません。

No.47号 「発想の転換」の模範解答（正解は一つではない）

例	困った子ども	→	困っている子ども
1	子どもを変える	→ (環境を変える)
2	なぜできないの！	→ (何に困っているのか？)
3	やる気のない子	→ (やり方の分からない子)
4	～しかできない子	→ (～あればできる子)
5	みんなに同じ支援	→ (一人一人に必要な支援)
6	一人の子の困り感	→ (周りの子の困り感)

